

## 2022年度 事業計画

〈法人目的〉 キリスト教の精神に基づき、あらゆる人々が自分らしく生きることのできる  
平和な社会の実現をめざす。

### I 保育事業（第二種社会福祉事業）

#### ＜保育理念＞

キリスト教の精神に基づいた保育の中で、乳幼児の育成に励み、一人ひとりの子どもが未来社会の良き担い手となるようにはぐくみ育てる。

### 1. 大宮保育園

#### (1) 認可定員・利用定員・職員数

- ・認可定員 180名
- ・利用定員 150名
- ・一時預かり事業定員 休止
- ・職員数 37名（園長1名、保育士27名／常勤20名・非常勤7名、調理員5名／常勤3名・非常勤2名、看護師／常勤1名、事務員2名／常勤1名・非常勤1名、保育補助／非常勤1名）

#### (2) 保育目標

どの子ども一人ひとり神さまから託されたかけがえのない子どもたち。

子どものありのままの姿を受け入れ、以下のような姿を目標に、全体的な計画にそって保育する。

- ・どんな小さなことにも感謝することのできる子ども
- ・すべての命を大切にすること
- ・あそびも学びも根気よく集中できる子ども
- ・表現豊かな子ども
- ・仲間を大切に、地域のなかでともに育ちあう子ども

#### (3) 年間保育目標

「つながって ～今、わたしを生きる～」とのキリスト教保育連盟の年主題を園の年間保育目標として掲げ、大切にしたいことを職員間で共有する。

#### (4) 保育内容

コロナ禍の2年間をふりかえり、保育のねらいを改めて職員間で丁寧に共有しながら、行事については「今まで通り」にこだわらず新しいやり方を模索する。一人ひとりのありのままを受けとめる子どもへの関わりを大切に、職員が連携をとりながら一人ひとりが実践する。

- ①乳児保育…育児担当制に学びつつ一人ひとりを尊重した丁寧な声かけを行い、ゆったりとした雰囲気の中で保育する。
- ②幼児保育…異年齢保育（たてわり）を基盤に、遊びと生活を通して人間関係をはぐくむ。目に見えない心の育ちを大切に活動や行事を行う。発達、課題に応じて年齢別クラス（よこわり）の活動を取り入れる。
- ③子どもの人権、特別支援保育、保護者支援等への理解を深め、チームで課題にあたるよう縦横で連携する。

#### (5) その他の取り組み

- ①地域と協働した子育て支援活動
- ②地域の小学校との子ども・職員間の交流

- ③地域の人たちとのふれあい、高齢者の方々との交流
- ④危機管理体制を充実させ、積極的に苦情処理、防犯、防災訓練に取り組む
- ⑤行政・地域と協働しつつ児童虐待防止、DV予防に取り組む
- ⑥職員の資質の向上をめざした研修や、職員会議を充実させる
- ⑦サービスの質の向上に向けて、ヒヤリハットや事故報告書などを検討し、再発防止に取り組む
- ⑧実習生、インターシップ、ボランティアを積極的に受け入れる

## 2. こひつじほーむ（小規模保育事業）

### （1）認可定員・利用定員・職員

- ・認可定員及び利用定員 12名（0歳～2歳児各4名）
- ・職員数 7名（園長1名、保育士6名／常勤4名・非常勤3名）

### （2）保育目標

子どもをありのままに受け入れ、一人ひとりの心に寄り添い丁寧に関わる中で、以下のような姿を目標に保育する。

- ・まわりの大人の見守りや援助の中で、安心して身のまわりのことをしようとする
- ・生活や命のある物に触れ合う中で、全ての物を大切にできる心が育まれる
- ・まわりの大人や友達との信頼関係の中で、自分の思いをそのまま言葉や身体で表現できる
- ・やってみようという思いを受け止めてもらいながら、興味を持つことに意欲的に取り組もうとする

### （3）年間保育目標

「つながって」 ～まいにち ありがとう～ とのキリスト教保育連盟の年主題を園の年間保育目標として掲げ、大切にしたいことを職員間で共有する。

### （4）保育内容

新制度のもとでの小規模保育事業所の役割を確認しつつ日々の保育に務める。

- ・小さい集団の中で家庭的な保育を行う。
- ・親元から離れて初めて出会う大人に十分に受け入れられ、信頼できる大人との出会いのなかで愛され、のびのびと過ごす。（育児担当制の実践）
- ・日々の安定した生活の流れの中で見通しを持ち、安心して過ごす。
- ・スキンシップ、あやし、受容と共感などで満たされた関わりの中で過ごす。（心の育ち）
- ・四季折々の自然に触れて遊ぶ中で五感を育む。
- ・保護者、地域の方、職員が繋がりあい、子どもの成長を見守る中で一人一人の自己肯定感を育む。

### （5）その他の取り組み

#### ①保護者支援

- ・おはなし会 月1回、保護者と子ども達が一緒に楽しく過ごせる交流の場を提供する。
- ・こひつじカフェ 保護者同士がゆっくりとお茶を飲みながら交流できる場の提供に取り組む。
- ・保育参加 子ども達の生活の様子・子ども同士や保育士との関わりを知り、子ども達の成長発達に気づききっかけ作りを目的として、半日園生活を共に過ごす。
- ・父親の交流会 父親の保育協力が多く、父親同士の交流にも目を向けていく。

②地域住民との交わりを積極的に取り組む。（近くの保育施設・教会・商店街のお店・公園 など）

③危機管理体制の充実をめざし、苦情処理、防犯、防災訓練に力を入れる。

④行政・地域と協働しつつ児童虐待・DV予防に取り組む。

⑤職員の資質の向上をめざした研修や職員会議を充実させる。

⑥ヒヤリハットや事故報告書などの検討に工夫を行い、再発防止やサービスの質の向上につなげる。

## II シャロン千里

北千里地区の再開発に伴い周辺の環境が変化していく中、シャロン千里は22年目に入り地域に愛され、必要とされる施設となってきた。今後も地域の皆さまが健康寿命の延伸をめざすために、役割を持って自立した生活を送るための担い手として、職員全員がそれぞれの専門性を活かし、高齢者・子育てに悩む世代・子どもたちをサポートしていきたい。

- 《基本方針》
- ・ 「いのちの尊厳」が守られるケアに力を注ぐ
  - ・ サービスの質の向上に努める
  - ・ 社会貢献事業に取り組む
  - ・ 経営の安定性をめざす

### 1. ケアハウス（軽費老人ホーム）

入居者同士が共同生活を穏やかに送れるよう、一人ひとりの声に耳を傾けながら、心身ともに健康に生活できる環境作りを目指す。新型コロナウイルス感染症に留意する中、クラブ活動・体操・行事などを通して、入居者が居室から出て活動できるように工夫を行い、予防の視点を重視した施設作りを目指す。

- ① 定員 50名
- ② 自立支援 ・入居者の自主性を尊重し、自立支援、自己決定が出来る環境作りに努める。
- ③ 生活の充実 ・入居者が個々に発信する情報を迅速にとらえ、多様化するニーズに合わせた支援に取り組むことで、一人ひとりの生活の充実を支援する。
- ④ 職員の質の向上 ・入居者一人ひとりが尊重され自分らしい快適な生活を送れるよう、人権擁護に関する職員の意識を高め、定期的な内部研修や外部研修を活用し、職員の質の向上に努める。

### 2. 介護保険事業

#### (1) デイサービスセンター（通所介護・介護予防通所介護）

時間に余裕を持ったプログラムでゆったりとした一日を過ごせる場の提供に努める。高齢化と共に機能が低下してくる利用者が増える中、誰にでも楽しんでいただけるようレクリエーションの充実と、四季を感じられるような行事の計画や、他者との交流が円滑に進められるお茶会・カラオケなどを行い、活気のあるデイサービスを目指す。コロナ禍の中、まだまだ厳しい状況は続いているが、積極的に幅広く利用者を受入ると共に、サービスの質の向上を目指して、職員一丸となった体制づくりを強化する。

- ◆目標 ・一日平均利用者数 17名（定員 20名） 定員変更4月より

#### (2) ヘルパーステーション（訪問介護・介護予防訪問介護）

2年経って、コロナ禍の影響が利用者に出始め、長期間にわたる未実績計画が実績数に影響を及ぼしてきたため、期間を区切っての対応に切り替えていく方向となった。またサービス提供責任者1名体制では、限られた定員の中での計画となるため、今年度よりサービス提供責任者2名体制とする。一人でも多くのヘルパーが自信をもって身体介護ができるよう研修内容を充実させ介護技術の強化を目指す。

#### (3) ケアプランセンター

特定事業所として、地域包括支援センターや地域医療施設との連携を図りつつ、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように支援を行なう。また支援困難ケースについても積極的に対応を行なう。ターミナル期における支援を可能な限り受け入れ、本人・家族の気持ちに寄り添い、人生の最期の時まで自身が望む尊厳のある生活を守る事が出来るように共に考え取り組んでいく。

- ①サービスの質の向上への取り組み ・介護支援専門員の担当件数を1人当たり35件とし、質の高いサービス提供に努める。職員研修の充実を図る（認知症ケア、在宅医療、精神疾患、マネジメント技術等）
- ②主任介護支援専門員としての取り組み ・地域包括支援センターとの連携・地域のネットワーク作り、介護支援専門員実務者研修における見学実習の受入、地域における他法人事業所共同での事例検討会の開催

#### (4) 介護サポート連絡会 ① 職員研修の成果を各事業現場に活かせるように取り組む。

- ② 介護保険情報を共有し、事業運営に活かす。

### 3. 受託事業（吹田市）

#### （1）留守家庭児童育成事業

子ども一人ひとりの声に耳を傾け思いに寄り添い、自分らしく安心して生活し遊ぶことができる居場所作りを目指す。班活動により子どもたちが協力して一つのことを成し遂げ達成感が得られる体験を提供し、子どもたちの学びと育ちを支援する。保護者との情報共有に努め、子どもの成長とともに喜び合う関係を築いていく。

#### （2）地域包括支援センター

2023年度からは、各包括の主体で様々な事業の運営に取り組んでいくことが求められる。2022年度は、それに備えて基本的な業務内容の理解を深め、地域特有の課題解決につながるネットワーク作りに取り組む必要がある。昨年度に引き続き、課題解決に向けての組織づくりを強化していく。また総合相談の数が増えるなか、効率的な業務のすすめかたを検討し実行することを目標とする。

### 4. こども館（児童館）

こどもの健全育成と子育て支援を目的として、親子でいきいきリレーションシップを行う。

### 5. 介護職員初任者研修事業（旧ホームヘルパー養成講座）

年1回、週2回の通学と自宅学習とする。修了後、当施設に勤務する方には受講料の一部を補助する制度や大阪府の補助事業を活用して受講生の便宜を図り、受講意欲の増進と職員確保につなげる。

### 6. 全 体

（1）職員数 58名（常勤18名、非常勤40名）

（2）食 事 ・食事提供を日清医療食品株式会社に委託し、安全で質の良い食材の確保や、入居者・利用者を楽しんでもらえる食事と食生活空間作りを目指す。

（3）事故対応委員会 事故の事例報告・検討を通じて事故防止、再発防止を目指す。

①各部署での事故検討を深め、再発防止へとつなげる。

②職員研修にて緊急時の対応などシミュレーショントレーニングを行う。

（4）サービス品質向上委員会

苦情対応報告やアンケート結果などを、利用者及び家族の声に重点をおいて検討し、サービス内容の見直しとサービスの質の向上を図る。

（5）身体拘束適正化委員会

「身体拘束適正化のための指針」に基づき、利用者本位のサービスによる質の向上を目指す。

（6）感染症対策委員会

「感染症・食中毒の予防まん延防止に関する指針」に基づき、その対応力強化に向けて取り組む。

（7）衛生委員会

職員が心身ともに安定した状態で労働ができるように課題検討を行い社内環境の改善を行う。

（8）社会貢献事業

経済的支援のみに留まらず、その人らしい自立にむけた支援が行えるよう大阪府社協の社会貢献支援員や吹田市内の他の施設と連携を密に対応していく。